

大学院トピックス

特別講演会、客員教授特別講義報告

HOYA株式会社 鈴木洋氏特別講演会

4月14日(土)、HOYA株式会社 代表執行役最高経営責任者、鈴木洋氏をお招きしての特別講演会を開催いたしました。情報が高速化し、めまぐるしく変化する状況にいかに対応するかが大切だと語る鈴木氏。また、「小さな池の大きな魚になる(=セグメントを絞り込んで、大きなシェアを狙う)」といふことばはまさに同社を象徴しており、最も印象に残ったという感想が多くの聴講者から聞かれました。



ユニー株式会社 西川俊男氏特別講義

5月10日(土)、ユニー株式会社の創業者、特別顧問の西川俊男氏による特別講義が「大波乱の時代に挑む 経営者の危機と勇気」というタイトルのもとで行われました。数多くの成功を重ねた西川氏が「過去を捨てる勇気」について語るなど、非常に奥の深い内容でした。経営を学びこれから起業を目指す人にとって、多くのことに気付く機会を与えた有意義な講義となりました。



今後の開催予定

7月19日(土)	10:30~12:00(受付開始10:00~) 大武 浩幸 氏 株式会社ユニカフェ 代表取締役社長	10月4日(土)	10:30~12:00(受付開始10:00~) 大平 喜信 氏 株式会社雪国まいかけ 代表取締役社長
8月 9日(土)	13:30~15:00(受付開始13:00~) 玉生 弘昌 氏 株式会社プラネット 代表取締役		13:30~15:00(受付開始13:00~) 矢内 広氏 ひあ株式会社 代表取締役社長 執行役員会長兼社長
9月 6日(土)	13:30~15:00(受付開始13:00~) 山本 善政 氏 株式会社ハドオフコボレーション 代表取締役会長兼社長	10月18日(土)	13:30~15:00(受付開始13:00~) 田端 一宏 氏 株式会社プライム 代表取締役社長

*特別講義の予定は今後も追加されます。決まり次第随時ホームページにて更新いたします。

大学院説明会情報

※説明会の時間は開催日により異なります。(ホームページにてご確認ください)

大学院説明会日程

新潟キャンパス	7月19日(土)、8月9日(土)、8月30日(土)、9月27日(土)
東京キャンパス	7月19日(土)、8月9日(土)、8月30日(土)、9月27日(土)
郡山キャンパス	8月2日(土)、8月23日(土)、9月27日(土)

プログラム…大学院設立の趣旨説明、教育課程の特徴説明、入試概要の説明、個別相談など

《ご都合により大学院説明会に参加できない方へ》個別に日程を調整いたします。ご希望の方は、お気軽に本大学院までお申し込みください。

入学試験情報

平成20年秋学期
(9月入学)

入学選抜試験日程

	試験日	出願期間
第1次募集	平成20年8月30日(土)	平成20年8月4日(月)~8月27日(水)
第2次募集	平成20年9月13日(土)	平成20年8月28日(木)~9月10日(水)

募集概要 詳しくは募集要項をご覧ください。募集要項をご希望の方は、本大学院までお申し込みください。

お問い合わせ・資料請求・大学院説明会や特別講義へのお申し込み等は
こちらまでお願いします。

URL ホームページ <http://www.jigyo.ac.jp/>
e-mailから……… info@jigyo.ac.jp
FAXから…………… 025-255-1251
本学に関するお問い合わせ……… 0120-250-1711

※お申し込みの際は、住所・氏名・電話番号・メールアドレス等をお知らせください。大学院説明会・特別講義へのお申し込みは、参加希望日(講師名)を明記してください。

事業創造大学院大学

2008年秋
郡山キャンパス開設

《新潟キャンパス》〒950-0916 新潟市中央区米山3丁目1番46号 TEL:025-255-1250 FAX:025-255-1251
《東京キャンパス》〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10階 TEL:03-5224-8288 FAX:03-5224-3722
《長岡キャンパス》〒940-0047 長岡市弓町1-8-37 長岡情報ビジネス専門学校内 TEL:025-255-1250(新潟) FAX:025-255-1251(新潟)

J Press

事業創造大学院大学通信

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

contents

表紙 集中講義 p.2 開学3年目を迎えて、修了生による地域貢献活動報告
p.3 講師紹介、大学院Q&A、著書紹介 p.4 特別講演会・客員教授特別講義報告、インフォメーション・イベント情報等

2008年7月1日発行
編集・発行
事業創造大学院大学
広報委員会・事務局



【バックナンバー】
広報誌「J-Press」のバックナンバーは、本学ホームページからダウンロードできます。



野中郁次郎先生(一橋大学名誉教授)による集中講義がおこなわれました。

2008. May 24, 31



5月24日(土)、31日(土)の二回にわたり、一橋大学名誉教授、野中郁次郎先生による「経営戦略」の集中講義が開講され、主に今年度4月に入学した1年生が受講しました。

本講義では、SECIモデルを中心とした知識経営の考え方を紹介されました。SECIモデルとは、知識の共有・活用によって優れた業績をあげている「知識創造企業」がどのようにして組織的知識を生み出しているかを説明するために野中先生が示したプロセスモデルで、世界的に知られています。講義は知識創造企業とは何かから始まり、「サントリー」や「ホンダ」など様々な企業のケースが採り上げられ、事業創造戦略を中心に置いた解説がされました。また講義内では「場の共有」

の大切さと、意見や仮説など相反する考えをぶつけ合って議論することでより真実に近づいていく「弁証法」の大切さが繰り返し強調され、理解を深めるためのグループ・ディスカッションが積極的におこなわれました。



野中郁次郎先生より、受講者にメッセージをいただきました。



一橋大学名誉教授
野中 郁次郎先生

組織論・経営戦略論の第一人者。
2002年紫綬褒章受章。一橋大学
名誉教授、カリフォルニア大学バー
クレー校経営大学院ゼロックス
知識学特別名誉教授。知識経営
論の生みの親として知られる。
エーザイ取締役(2008年まで)、
富士通取締役、三井物産取締役、
セブン&アイ・ホールディングス
取締役等を歴任。2006年事業
創造大学院大学非常勤教員就任。

な知識創造とイノベーションを促進し伝承していくのが賢慮のリーダーシップなのである。

講義の全体を通して、活発な議論や意見交換が行われ、講義の場そのものが、Learn(学ぶ)というOutside-In(外から内へ)だけではなくCreate(創る)というInside-Out(内から外へ)の関係であり、互いのInter-Action(相互作用)に基づく知識創造の場であったと思う。受講生のみなさんの高い参加意識には敬意を表したい。

受講生の中には、起業家(Entrepreneur)を目指す方だけでなく、社内起業家(Intrapreneur)を目指す方もいらっしゃることと思う。いずれにせよ、コトを起こし、コトをなすということは、みなさんの情熱、勇気、コミットメントなどの「生き方」が問われる。自らの思いを大切にして、大いに活躍されることを期待する。



開学3年目を迎え、さらなる社会貢献を目指すことが本学の使命

原 敏明 Hara Toshiaki

副学長・教授
担当科目: 地域経済論
新潟大学人文学部卒

(株)第四銀行～財新潟経済社会リサーチセンター専務理事～新潟医療福祉大学教授
現在、新潟商工会議所参与政策委員長・新潟市経営改革推進委員会委員・渋谷市・青島市友好交流委員会会長・新潟市大規模公共事業再検討委員会委員・新潟市佐潟学術研究審査会委員・新潟県広域自治体のあり方懇談会委員・北陸建設経済研究委員会WG座長・北陸地域自立策検討委員会委員長

(1) カリキュラムの継続的充実を

これほどまでに変化の激しい時代は初めてだと多くの経営者が語る現代、本大学院は時代の要請を受け、全国でも前例のない事業を創造するための大学院として設立されました。2008年春、無事、経営管理修士号を取得した第一回目の修了生53名を輩出しました。起業した者、その準備に入った者、企業に戻り新規事業の立ち上げを担う者など、様々なフィールドで活躍する様子が聞けるのはうれしい限りです。

仕事を続けながら学ぶ学生に、それだけの価値のあるものを提供できたという自負はあります。しかし、事業計画が具現化していく中で改善され進化していくのと同じように、カリキュラムもまた進化し続けることで継続的な充実をはかりたいと思っております。

(2) 新潟商工会議所地域力連携拠点のパートナー機関に参加

カリキュラムの充実はもちろん重要ですが、今後、大学院としてさらなる社会貢献をはかることが大きな使命であると考えております。なぜならば、本大学院が目指している起業家の育成は、事業を創造して実践することで経済を活性化させ、社会に貢献することを目指すにはかならないからです。



修了生による 地域貢献活動報告

2008年3月に経営管理修士号を取得した本大学院の第一期修了生による研究会が次々とスタートしており、活動も本格化してきました。研究会は大学院を通して形成された学生同士や教員との連携による研究開発活動で、地域貢献、地域振興を目的としています。いずれの研究会もそれぞれの得意分野を活かすとともに、自身の知識やスキルの向上につながっています。仕事が終わった後で教員のもとへ相談に訪れたり、定期的にキャンパスに集合して報告会などの活動を行っています。

現在は、「地域経済研究会」「地域ブランド研究会」「いなかベンチャー研究会」の3つの研究会が活動しています。

「地域経済研究会」 調査、研究内容の一部をブログやホームページを通じての情報発信を行っています。始まってまだ2ヶ月にも関わらず、ブログへのアクセスは3000件を超えました。

「地域ブランド研究会」 メンバーが在学時に行った新潟県人のライフスタイル調査がベースとなり、物産、歴史、地域特性について訴えたいものをどのように集約してブランドコンセプトを作り上げていけば良いかを研究しています。

「いなかベンチャー研究会」 地域の資源（すべて新潟のもの）を活用してベンチャー企業を立ち上げることが狙いです。一つの大きな事業の計画ではなく、小規模な事業をいつも立ち上げることで活性化を狙います。

企業は人と人とのつながりで成り立つもの 会計数値に隠されている人の意図を伝えたい



小嶋 宏文

Kojima Hirofumi

講師
担当科目：企業会計

神戸大学経営学部～神戸大学大学院経営学研究科会計システム専攻博士課程修了。
神戸大学大学院経営学研究科会計制度特論ティーチングアシスタント～同大学院経営学研究科社会人MBAプログラム財務会計応用研究ティーチングアシスタント～帝塚山大学簿記論II非常勤講師。日本会計研究学会会員。博士（経営学）

□ 担当科目に関する概要説明

～楽しい会計学へむけて～

昨春より、本大学院で「企業会計」を担当しております。本講義では特に財務会計における利害調整機能に着目して会計理論や会計に関する時事問題の説明を行い、最終的には事業計画書における財務計画部分を書けることを目標としています。

一般的に経済学、経営学及び商学を学んだことのない人にとっては、「会計=簿記」という短絡的な関係をイメージされるかもしれません。会計を学ぶ上で、まず簿記を知るということも手段の一つですが、それが全てであるとは思っておりません。このようなイメージがあるために、これまで経営学を学ぼうと思った人たちが会計数値に苦労してきたことは、容易に想像できます。まさしく「会計が苦」という状況に陥っているのです。

私の授業では、期末などに報告されるドライにも思えるような会計数値には何らかの意味があり、報告される裏には人間らしさが存在していることを伝えようとしております。企業自体を、「モノのかたまり」であるというような無機質なものとして捉えるのではなく、「人

ととのつながり」で成り立っているものとして考えていくことが、重要なことであると思っています。このような視座で捉えていくことにより、今まで理解できなかった、または理解しようとなかった会計問題も、身近なものとして考えていくことができます。本講義を受講した後には、一人でも多くの学生に「会計楽」と思っていただけるようにすることを心がけています。

□ 入学を検討する人へのメッセージ

詰め込み式にがむしゃらに覚えようとしても、いずれ忘れるような勉強をすることは、起業をしようとする人にとって無用なことですが、自分が理解できるように知識を身につけていけば、起業にもきっと役に立つものとなるはずです。当大学院へ入学を考えている皆さんには、何事も恐れず、千里の道も一歩からということでお道に勉強に取り組んでもらいたいです。

□ 趣味や休日の過ごし方

仕事のない日には友人たちとフットサルに興じたり、ジムで泳いだりしています。メタボ症候群に陥らないために日々の軽い運動を怠らないよう頑張っております。

大学院 Q&A

Q MBAとはどのようなものですか？

A

MBA (Master of Business Administration)とは、経営管理修士（専門職）を意味します。経営（管理）学の大学院において世界的に通用する高度な経営ノウハウを学び修了した者に与えられる修士の学位のことです。経営に関わる諸問題を、体系的、論理的に解決する力を持つことの証明といえます。ビジネスシーンでの即戦力として、また起業する際にも役立つスキルとして重要視されています。

Q 専門職大学院とはどういう大学院ですか？

A

専門職大学院とは、ビジネスに直結する実践的な内容を学ぶ、実務家育成型の大学院です。高度な専門性が求められる職業を担うための人材を育成することを目的としています。研究者教員による理論教育に加え、現場経験をもつ実務家教員による専門的な実務教育を行うことが特徴です。めまぐるしく変化する社会の要請に応え、2003年施行の改正学校教育法で設置が認められました。

著書紹介



信田 和宏
Nobuta Kazuhiro

教授
担当科目：マーケティング、ブランドコミュニケーション、演習（広告ビジネス）

『大人論～劣化する日本人への警告～』



著者：信田 和宏
出版社：C&R研究所
定価：1,365円

「大きいことは良いことだ世代（親の世代）」と「スイッチ世代（子の世代）」との対立がキレッとした社会不安を生んでいる。これから向かうべき高度文明社会の条件は、大人の社会であることだ。私たち一人一人が大人になるために…